

# 私立大学研究ブランディング事業 2016年度の進捗状況

学校法人番号	281026	学校法人名	学校法人関西看護医療大学		
大学名	関西看護医療大学				
事業名	セラピーアイランド淡路島の構築を基盤とした地域活性化と看護教育カリキュラム開発に向けた研究拠点の創設				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	350人
参画組織	看護学部、看護学研究所、看護診断研究センター				
事業概要	<p>本事業の目的は、行政・市民・支援団体と一体となり、日本遺産淡路島の資源(ヒト・文化・自然)を活用した「セラピーアイランド淡路島」構築の研究・活動拠点を本学に創設することである。その事業活動を基盤として、人的・文化交流を推進することで地域住民の健康増進を図り、地域経済の活性化に寄与する。また、本事業の研究活動成果をもとにセラピーと看護を融合した看護実践能力向上につながるカリキュラムを開発する。</p>				
①事業目的	<p>本事業は、身体・心理・精神の改善をもたらす、人・自然・文化を介在した治療や療法を「セラピー」と定義し、以下を目的として展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 本学を研究拠点とし、日本遺産淡路島の「セラピー」資源の発掘とその効果および実施方法を健康科学の側面から研究開発する。</li> <li>2) 本学において「セラピー」の提供を含めた妊娠・出産・育児・認知症予防・緩和ケア等のセラピー活用支援モデルの開発及び島内の公共未使用施設を拠点としたモデルの実施とその効果の検証を行う。</li> <li>3) 淡路島ブランドのセラピー資源の商品開発とその効果の検討を行う。</li> <li>4) セラピーと看護を融合したより独創的な看護教育カリキュラムを開発し、その成果を全国の看護教育機関等に発信する。</li> </ol>				
②2016年度の実施目標及び実施計画	<p>(実施目標) 事業拠点を本学に開設し、淡路島のセラピー資源の発掘、セラピー活用支援モデル(以下モデルと記す)づくりのための学内施設の開設準備、学内のセラピーサークル(以下サークルと記す)創設と活動、年次目標達成度の内部評価・外部評価の実施</p> <p>(実施計画)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 島内のセラピーと資源を地域住民・セラピー関連NPO団体等と協働し発掘</li> <li>2) モデルづくりのための学内及び学外(公共未使用施設)施設開設に向けた準備             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 施設設備の検討と施設案作成</li> <li>(2) モデルづくりに必要な専門的な知識と技術獲得のための専門家による研修会開催</li> </ol> </li> <li>3) 学内に淡路の自然と資源を活用するサークルの立ち上げと顧問の選任。看護診断研究センターの研究部門と協働し、サークル活動前後で気分尺度、心理的ストレス尺度等の尺度を用いた評価</li> <li>4) 事業の内部評価および外部評価を行い、事業プランや実施方法の有効性、目標の達成度等を検討し、より効果的な事業の運用に向けた具体策の策定と次年度への反映</li> </ol>				

<p>③2016年度の事業成果</p>	<p>1) 健康に寄与するセラピーを抽出するため、島内にあるセラピー及びその資源と考えられるものに関する情報を自治体等の協力を得て収集した。</p> <p>2) 学内スペースを「セラピー活用支援モデル施設」として改修することを決定し、改修工事、設備内容を検討し、施設改修計画を立案した。 学内モデル施設における活動計画案(目的、実施内容、効果、予算等)を検討した。 モデルづくりに必要な専門的な知識と技術習得のため、高齢者や妊婦に対する「タクティールケア」の研修実施の可能性とその効果について検討した。 本学が実施するセラピーの関連情報を発信するため、「春のセラピー」、「親子ふれあい広場」の事業実施の企画案を検討した。</p> <p>3) 学内に淡路の自然と資源を活用する4サークル(つりセラピー、ダイビングセラピー、しんりんセラピー、笑いセラピー)の立ち上げ準備を行った。 セラピーサークルの定義、活動目標、対象(人数)、活動内容を定め、年間活動計画と予算案を検討した。 セラピーサークルの効果を測定する尺度、指標を検討し、POMS、STAI、MHP、CLAS等に加え、生理学的指標となる指尖脈波を導入することを決定した。</p> <p>4) 本事業の自己評価・外部評価を踏まえ、次年度は①発掘したセラピー資源の検証・公表、②学内モデルの運用案の策定と施設の開設、③学外施設の開設準備、④セラピーサークル活動と効果の検証の継続を実施することとした。</p>
<p>④2016年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価)</p> <p>1) 淡路島のセラピー資源の発掘(3) ※ ( )内は評点(5~1)を示す。 島内にあるセラピーとその資源に関する情報を地域住民、淡路市役所等の協力を得て収集することができた。</p> <p>2) セラピー活用支援モデルづくりのための学内施設の開設準備(4) セラピーを活用したモデルとなる支援活動を開発するため、学内拠点施設として施設の改修整備案を企画・立案するとともに、その施設での活動計画案を検討した。 モデルづくりに必要な専門的な知識と技術を習得するため、高齢者や妊婦に対する「タクティールケア」の研修実施の可能性とその効果について検証した。 本事業のセラピーに関する情報を広く発信するため、「春のセラピー」、「親子ふれあい広場」の事業実施の企画案を検討することができた。</p> <p>3) 学内セラピーサークルの創設と活動(4) 学内に淡路の自然と資源を活用する4つのセラピーサークル(つりサークル、ダイビングサークル、しんりんサークル、お笑いサークル)の立ち上げ準備を行うとともに、それぞれの活動目標、内容等について検討した。 セラピーサークル活動による効果を具体的に測定する尺度、指標について検討した。</p> <p>4) 年次目標達成度の内部評価・外部評価の実施(3) 本事業の自己評価および外部評価を踏まえ、次年度の実施計画に反映した。</p> <p>※達成度評価の基準(外部評価も同じ)</p> <p>5: 年度計画を上回って実施している。 4: 年度計画を十分実施している。 3: 年度計画を概ね実施している。 2: 年度計画を十分には実施していない。 1: 年度計画を大幅に下回っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>全体として、本事業初年度で事業選定が遅くなり、実施期間が短かったが、概ね順調に進展していると評価できる。(3)</p> <p>1) 淡路島のセラピー資源の発掘(3) 島内33か所のデータを収集しており、今後の事業計画とマッチングさせて、具体的な事業の展開が進められるものと評価できる。</p> <p>2) セラピー活用支援モデルづくりのための学内施設の開設準備(4) 具体的な改修見取り図も出来上がっており、計画通り進んでいると評価できる。 2つの事業案(春のセラピー、親子のふれあい広場)が策定されており、順次実施されていくものと思われる。その成果を評価・発信していくことが期待できる。</p> <p>3) 学内セラピーサークルの創設と活動(4) 先に収集した島内のセラピー資源の中から4つのサークルについて、具体的な活動計画が示されている。サークル活動として、学生のリクルートもできており、今後の活動の実施主体に若い力も有機的に盛り込んでいけると期待できる。</p> <p>4) 年次目標達成度の内部評価・外部評価の実施(3) 事業初年度で実施期間が短時間になったにも関わらず、一定の成果が見られ、概ね順調に進展していると評価できる。次年度の事業実施の成果に期待したい。</p>

<b>⑤2016年度の補助金の 使用状況</b>	旅費交通費 34千円 消耗品費 1,388千円 会議費、または雑費 10千円 教育研究用機器備品 280千円
------------------------------	---